

筑波大学大学院人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

リハビリテーション科学 学位プログラム 博士前期課程

令和7年度入学試験

論述試験問題

[注意]

1. 問題は、問題1と問題2の2問です。
問題1は、(1)と(2)の2つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
問題2は、(1)と(2)の2つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
2. 答案用紙は600字詰め4枚、下書き用紙は4枚あります。
答案は、設問ごとに答案用紙1枚にまとめて記載してください。
答案用紙の裏面は使用しないでください。
下書き用紙は、自由にお使いください。
3. すべての答案用紙に必ず受験番号を記入してください。
4. 各答案用紙の欄外の左上に、問題番号[問題1(1)、問題1(2)、問題2(1)、問題2(2)]を明記してください。
5. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

問題 1

表 1、表 2 は、内閣府が令和 3 年度に報告した高齢者の暮らしに関する調査結果である。表 1 は、60 歳以上の男女を対象に孤立死を身近な問題とを感じるかを調査したものである。表 2 は、東京 23 区内における一人暮らしで 65 歳以上の人の自宅での死亡者数を示したものである。

- (1) 表 1 及び表 2 から読み取れることを 400 字以内で述べなさい。
- (2) (1) で読み取った内容に基づき、高齢者の孤立死を社会全体として防ぐにはどのような方法が考えられるか。あなたの専門性を考慮して 600 字以内で述べなさい。

表 1. 孤立死を身近な問題とを感じるものの割合 (%)

	とても 感じる	まあ 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	分からない
総数	9.1	24.9	36.5	27.4	2.0
一人暮らし	15.9	34.8	31.4	16.3	1.5
夫婦のみ世帯	7.5	23.6	39.5	27.8	1.6
その他世帯	8.5	23.0	35.5	30.6	2.5

表 2. 東京 23 区内における一人暮らしで 65 歳以上の人の自宅での死亡者数

	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
人数	2,913	2,618	2,733	2,878	2,891
	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
人数	3,127	3,179	3,333	3,882	3,936

注：令和 3 年度版高齢社会白書を参考に作成

問題 2

次の文章（4 頁～6 頁）は、仲正昌樹氏による『「不自由」論 「何でも自己決定」の限界』（仲正昌樹著、ちくま新書 432、2003 年、p. 182～187）の一部を抜粋して掲載したものである。

この文章を読んで、以下の設問（1）と（2）に答えよ。

（1）本文の要旨を 400 字以内で述べなさい。

（2）著者は、本文の下線部で「これまで放置されてきた『自己』決定の問題に対して、何らかの形で『社会』が関与しようとする場合、『イマジナリーな領域への権利』という準・法的概念が必要になってくる」と述べている。

なぜ自己決定において「イマジナリーな領域への権利」が必要なのか。本文の論旨をふまえ、あなたが関わっているリハビリテーションの実践や事例を用いて、400 字以上 600 字以内でわかりやすく説明しなさい。

著作物にあたるため、この部分は公開できません。

著作物にあたるため、この部分は公開できません。

著作物にあたるため、この部分は公開できません。